

自ら調べ考える学習

青南高「国際バカロレア」開講

本年度から国際基準の教育プログラム「国際バカロレア」(IB)コースを新設した青森市の青森南高校は15日、同コースの開講式を行った。県内で初めて認定校となった同校の生徒は、国際的に認められる大学の入学資格を得られるメリットがある。2年生4人は自ら調べて考える「学習者中心」の教育に意欲的だった。

(工藤慎子)



IB文学の授業で、意見を出し合う生徒15日、青森市の青森南高校

IBは国際バカロレア機構(スイス)が定めた教育プログラム。単純な知識の暗記でなく、思考力や表現力を身に付けるため、ディスカッションやプレゼンテーションを多く取り入れた教育が特徴。国内外の大学入試に活用できる「IB資格」の取得が可能で、多様な進学機会が得られる。

同校は昨年、公立高校では東北で2校目、全国で9校目のIB認定を取得。昨年度できたグローバル探究科では、2年から「IBコース」か「グローバル探究コース」のいずれかを選択できる。

IBコースの1期生となったのは今紫森さん、小田桐希さん、嶋中遥さん、石澤里彩さん。同日は報道陣に授業が公開され、IB文学の授業で金子みすゞの

詩「春の朝」を分析した。生徒は「反復法が使われていてリズムが生まれている」「擬態語もある」などと意見を出し合い、作者が詩に盛り込んだ技法について考えた。

石澤さんは「IBの授業は模範解答がなく、自分の意見を否定されない」、小田桐さんは「少人数で話し合い、意見を共有できて楽しい」と魅力を語った。久保田千夏校長は「IBコ

ス为新設したことで、それぞれの生徒に合ったスタイルで勉強ができ、進路選択も多様になる。身に付けた探究力を生かし人生を切り開いてほしい」と話した。

東奥日報 2025年(令和7年)4月16日(水)掲載

この画像は当該ページに限って東奥日報社が利用を許諾したものです。